

NHKさえ票読みで二転三転

都議選大敗北の自民党と 「小池劇場」の進軍ラッパ

政治ジャーナリスト 鈴木哲夫

したたかに仕掛けた選挙戦略

「申し訳ないが、安倍総理の応援は遠慮してもらった方がいいかもしない」（自民党都議選ペテラン候補）

「ポスターを貼つてもうのに、安倍総理の顔が入った自民党ポスターは断られました」（23区自民党候補運動員）

5年間、高い支持率をキープして安倍政権にとっては、初めての反応だろう。

7月2日に投開票された東京都議会議員選挙は、単なる「地方選挙」という次元を超えて、安倍政権の結果が変わるかもしれない、自民党の「歴史的大敗北」と言つてもいいだろう。

投票日の当日、かなり詳細な出口調査を行なっていたNHKは、あまりの自民党への投票の低さを知り、内部の当落判定会議で「40議席を割るところか20議席台も」と、一旦予測を弾き出しが、「いや、まさかそこ

まで負けるとは信じられない」と、再び予測を上方修正したほどだった。

しかし、結果はやはり劇的。自民党は改選前57議席の半数以下の23議席しか獲得できず、第一会派の座から転落した。

人気の小池百合子都知事が率いる都民ファースト（以下ファースト）の獲得議席は、追加公認含めて55議席。

小池知事と協力関係の公明党などを合わせて、小池派の勢力は都議会定数127の内、過半数を優に越えた。もはや議会は小池知事の意のまま、自民党も抵抗の術を失った。

勝因は、半分はもちろん小池人気

と、小池知事がしたたかに仕掛けた選挙戦略にあつた。昨年の夏に登場した小池知事は、それまで長く都議会を支配し、都庁行政を巻き込んで存在感を示して来た都議会自民党と対峙し続けた。

今回の都議選は、その激しい対立を反映し、常に攻守とこれを代えて立候不良のため飛行機が飛ばず中止になつたが……。

普通は大票田の都心のど真ん中で、ワーッと盛り上がり終わるが、東京

ファーストが60議席にも届く、との各種世論調査結果が出たかと思えば、自民党が3月議会を機に豊洲新市場移転問題を取り上げて、「決められない知事」キャンペーンを展開し、GW明けの調査では何と自民党が議席でトップに。

しかし、ここで小池知事が再び反撃に出る。

何かの時に使えるとの判断で、そのままにして来た自民党籍を離脱して、自らファーストの代表に就任し、知事自身の高い支持率を、そのままファーストの知名度アップに合体させて大成功したのだ。

「自民党は、組織票は固めたが、その後の無党派層の取り込みには苦戦した。空中戦は圧倒的に小池知事の独壇場。最終日の最後の演説をハ丈島でやることを決めるなんて、今まで聞いたことがない（結局、天

年明けには、小池知事を支援する



都民ファースト

注目の千代田区（1議席）に立候補の「都民ファーストの会」樋口高顕貴候補（当選）の応援に駆け付けた小池氏（樋口氏HP）

大敗の要因の内、半分はこうした小池知事以上に勝敗に影響を与えたのが安倍政権、与党自民党が犯した罪と言つていいかもしれない。THIS is 敗因だ」と自民党ベテラン議員が言つたという。

「THIS」は名前の頭文字だ。Tだが、ファーストの勝因と自民党の

は秘書に暴言、暴行をはたらいたとされる豊田真由子議員。Hは加計学園の獣医学部承認問題で、文書に名前が、ファーストの勝因と自民党の

議は、「THIS」のベースには、もっと深刻な問題があったと話す。

「元々は森友学園の国有地問題に始まり、加計学園の処理に至るまで、安倍首相や官邸はあまりにも不誠実。特に、加計問題は強引に国会を開じるなどして、都議選に入る前にすでに内閣支持率は落ち始めていた。THIS以前に、危機管理などで完全に世論をナメていた。一強の驕りだ」

東京は無党派が多く投票行動は時の風に左右されやすい。さらに流動的人口も多い。

前が取り沙汰された萩生田光一官房副長官。Iは「自衛隊も応援している」と政治的中立を侵して選挙応援した稻田朋美防衛相。Sは加計学園から違法献金疑惑を報じられた下村博文自民党都連会長。これらが有権者を怒らせ、非自民の投票行動に出たというのだ。

だが、自民党的落選したベテラン都議は、「THIS」のベースには、もっと深刻な問題があったと話す。

「元々は森友学園の国有地問題に始まり、加計学園の処理に至るまで、安倍首相や官邸はあまりにも不誠実。特に、加計問題は強引に国会を開じるなどして、都議選に入る前にすでに内閣支持率は落ち始めていた。THIS以前に、危機管理などで完全に世論をナメていた。一強の驕りだ」

東京は無党派が多く投票行動は時の風に左右されやすい。さらに流動的人口も多い。

転勤などで、例えば、都議の任期4年で半分近くも人口が入れ替わる地域もあるほどだ。

これらの有権者には地域の争点や公約はあまり関係ない。彼らは、国政や政治全体のテーマなどで投票す

る傾向が強い。今回は、彼らが明らかに安倍政権への批判で投票した（自民党都連幹部）

私も、そうした空気を感じたのが、投票前日の最後のお願い。逆風を意識して、自民党は安倍首相の街頭演説を封印して来たが、最終日に秋葉原駅前の候補応援で街頭に立つた。

この時、反安倍を唱える人達が大挙して駅前に詰めかけ、安倍首相の演説中に、「安倍辞めろ」「安倍帰れ」とシユブレヒコールを上げる騒ぎとなつた。首相も「こういう人達には負けない」と応戦。異例の光景は大きなニュースにもなつた。

その一角で取材していた私は、しかし、その喧騒よりも別のこと気に附いた。

集まつた聴衆に対して、自民党の運動員がいつものように紙製の日の丸の手旗を渡していたのだが、これが充分にはげずに大量に残つていたのだった。

秋葉原は、安倍首相が2012年に政権に返り咲いた選挙で街頭演説して最高の盛り上がりを見せた場所。その後も、安倍首相にとつては、選挙の重要な局面で何度もこの場所に立ち常に多くの聴衆を集め、秋葉原



秋葉原駅前に応援演説に挑んだ安倍首相だが、観衆からはブーイングの嵐が（中村あや子氏HP）

「こんなに余ってしまいました」――。

顔見知りの運動員は私にそう言つて手に握つたままの余つた小旗を見せた。潮目が変わつて来たことは、そんなところにも垣間見えた。

国政を射程に収めた小池知事

自民党の安倍首相に距離を置くり

ペラル派のベテラン議員は、「今回の敗戦で安倍首相にもモノ申す空気が出て来る。憲法改正のスケジュールや来年の総裁選の3選で、党内的コンセンサスにも影響が出て、安倍シナリオがうまく行くかどうか分からなくなる」と話す。

そして、東京都議選は過去を見れば分かるとおり、必ず国政に直結する。今回の都議選を踏まえ俄然注目されるのは、国政のステージだ。

必ず「小池新党」の動きが出ると言るのは、自民党選対幹部議員。その理由は、なるほど明快で説得力がある。

「今回の選挙で、ファーストの得票は何と約200万票。じやあ国政選挙ではどこに投票するのか」というと投票先がない。ならば、その受け皿を作るべきという議論に絶対になる。

小池新党は必然的に作られる。次

期総選挙に小池さん自身が打つ出

ることはないが、自民党に離党届を出している盟友の若狭勝衆議院議員が中心的な役割を果たして、東京の25の小選挙区や比例で候補を擁立する」（フアースト幹部）

さらに、小池新党待望組がいると言つ。

「現職の国会議員で渡辺喜美参議院議員や、民進党を離党した長島昭久衆議院議員、同じく民進党と距離を置き始めてる柿沢未都衆議院議員らは、小池知事と政治勢力を結集させることに前向きです。また、都議選でフアーストの応援にわざわざやつて来た、減税日本の河村たかし名古屋市長は、小池知事と一緒に国政政党を立ち上げて日本の統治の仕組みを変えようというのが一貫した主張です。現職らが政党要件の5人集まつて、先に新党を立ち上げるケースも想定できます。また、総選挙では河村氏の名古屋の他、九州や東北でも小池知事のシンパの元議員らが動いてる他、関西では特に兵庫などを中心に新党参加希望者がいると聞いています。第三極の政治姿勢で行くことになると思います」（同都議）

に訪れている若者らに大声援を受けた聖地だった。

皆が、運動員の配る日の丸を受け取り、安倍首相の演説に合わせて振

つて来た。

その「日の丸」が、この都議選のこの時ばかりはさつぱりはけなかつたの



「小池新党」に合流すると噂される国会議員として、すでに渡辺喜美氏（上）、長島昭久氏（中）、柿沢未都氏の名が挙がり始めている

強まる自公間の「すきま風」

この他、小池新党を加速させるような外的要因も加わっている。1つは今回の都議選で生じた「自公」の隙間だ。実は都議選の中盤に入り、こんなことが起きた。前述したTH-Sなどで、有権者が示した反応は、思ぬ方向に向いたのだった。

「六朝詩」

北多摩3の4つの選挙区で各種世論調査などで赤ランプがいた。代わりに上がつて来たのが、何とうしても競つていた共産党候補。東京は無党派が多く共産党へのアレルギーも少ない。そういう人達は、政権批判票は共産党へ流れる傾向があるのです。自民党政権の失態なのにツケが回つ

「自民党のせいで苦戦したという思いは強い」（同幹部）という。また、今回公明党は必勝を期すために、人気の小池知事と選挙協力し自民党との連携を絶つた。これについては、自民党都連幹部は「中央は自己連立だが、次の総選挙でしこりは残つてギスギスする」前出公明党幹部も、「関係修復には時間がかかる」と明言した。

こうした自公の状況は、小池知事サイドから見れば「次の総選挙は自己の盤石な選挙協力は崩れる。フアーストが候補を立てれば勝てる」と勝機ができたというわけだ。

「都議選前に小池知事が豊洲と築地について併用を発表した。多くの人が、どうつかずの結論と批判しているが、豊洲の流れが強まる中で、逆に築地を何だかんだ理由をつけてでも、可能性をよく残したという見方が正解だ。選挙が終わつたら時間を作けて、小池知事は築地再整備によっては豊洲から再び築地に戻すような大胆な手を考えのではないか。なぜなら、築地再整備は小側近の1人が明かす。

一方、都政の課題では「築地問題」が再燃する可能性が高い。小池知事と見られるからだ。

旨を明らかにしたが、加計問題の処理をどうするか、また起死回生の内閣改造などで果たして刷新できるかこれまででも下がった支持率を跳ね返して来た外交などをどう展開するか……。都議選シヨツクはまだまだ確実に尾を引く。

もはや「知事vs都議会」といった地方選挙の次元を超えて、「小池劇場」は次の国政のステージへと着実に駒が進んだ。

て來た。ふさがるな、いい加減にしろ」という自民党に対し、相当強い不信感が選挙期間中に生まれましたね」

つけ加えるなら、この自公の構は都議会レベルでも小池知事に優位だ。公明党は、今後も自民党と距離を置き、「都議会では小池知事に近づき都政のキャスティングボートを握る選択をするしかない」(ファースト幹部)

池知事がずっとこだわって来たところだからだ。都議会で築地問題が激しく再燃する」

安倍首相は、麻生太郎副総理兼財務相や菅義偉官房長官らと結束を再確認し、「緩みを反省して出直す」



国政で公明党が自民党と距離を置く懸念も